

令和4年度 第1回松本市教育文化センター専門委員会 会議録

1 日時

令和4年5月27日(金) 午後3時30分～午後5時

2 場所

教育文化センター 201会議室

3 出席者

(1) 委員

- ア 研修委員会 原委員（専門委員会委員長）、大王委員、重盛委員
- イ 視聴覚委員会 布川委員、矢代委員
- ウ 科学博物館委員会 原田委員（宮城委員は欠席）

(2) 事務局

臼井教育政策課長、高橋教育文化センター所長、一ノ瀬科学博物館長、小林指導主事、上條指導主事、望月主任、桐原指導員、鈴木指導員、上條旧山辺学校校舎館長

4 内容

(1) 開会

(2) 臼井教育政策課長あいさつ

センターの開館以来、市内教職員が委員として教材研究に携わってきた歴史がある。教文学習は、令和4年度から名称を「アルプスタディ」と改め、子どもの学びの起点づくりとして明確に位置づく学校連携事業として実施している。本委員会での教材研究等については、何らかの形で学校へ発信し、松本の子どもの学びへ還元していきたい。

(3) 原専門委員会委員長あいさつ

今日、源池小学校では中庭の田んぼに田植えをした。どの子も初めてだったが、泥につかる体験や経験が大切で、アルプスタディも同様と考えている。その内容をさらに磨くために、科学やICT分野が専門の先生方に集まっていた。松本市がずっと大切にしてきたアルプスタディがさらにより良いものになっていくことを願っている。

(4) 会議事項

ア 組織改編について

- ・ 教育部から教育委員会事務局へ改称
- ・ 教育政策課内に教育研修センターを新設
- ・ 学校教育課学校支援センターを学校支援室に改称

イ 教育文化センター専門委員会について

- ・ 条例に基づき、事業の充実と円滑な運営を図るために設置
- ・ 協議に際し各委員にはアルプスタディの視察をお願いする
- ・ 教材研究を進め、部会ごとに成果を学校教育に還元したい。
- ・ 研究内容を学校に配信したいと考えている。12月末までに何らかの形で学校に発信する予定

【委員からの意見や質問等】

- ・ 発信の内容は、現在のアルプスタディの内容をベースにするのか、一から考えていくのか。
→ まずは今年の内容をベースにしながら、新たなアイデアをだしたり、教材開発をお願いしたい。

ウ 令和4年度アルプスタディについて

- ・ 昨年度、教文専門委員会からいただいたご意見をもとにブラッシュアップを重ね、「アルプスタディ」として実施
- ・ 普段とは違う環境で、専門の先生と学校の先生とともに学ぶ
- ・ 主体的に対象に関わり体験を重視しながら学ぶ
- ・ 昨年度、感染症拡大のために実施できなかった旭町小学校から、今年度6年生での実施希望があったため、庁用バスを活用して実施

エ 中学校の実施について

- ・ バス借上料の配当にあたり、抽選を実施し、3校に配当できない状況
- ・ 令和3年12月の実施希望調査では、全ての学校が実施を希望
- ・ 庁用バスを活用する等、実施校を最大限増やせるよう調整

(5) 各部会に分かれて協議

ア 科学・プラネタリウム【出席者 原委員長、原田委員、一ノ瀬、小林、鈴木】

(ア) 上高地の岩石を活用した学習

【主な意見を抜粋】

- ・ 女鳥羽中学校では、教育課程に上高地学習が位置付けられている。学校職員が進める学習プログラムにおいて、教育文化センターと連携した以下のような学習が考えられる。
 - ① 教育文化センターが保管する滝谷花崗閃緑岩のサンプルを学校へ貸与
 - ② 学校職員が、授業内で滝谷花崗閃緑岩等を教材として扱い、校外学習での現地学習につなげる
 - ③ ウェストンレリーフの母岩が滝谷花崗閃緑岩で出来ていること
 - ④ 信州大学名誉教授の原山先生の研究により、滝谷花崗閃緑岩が世界一を争うほど新しいと分かったこと（北アルプスの隆起量が極めて大きいこと）
 - ⑤ 理科の学習順序を入替え、花崗岩に係る学習をアルプスタディ前に実施
 - ⑥ オンラインや対面等で、教育文化センターの職員が外部講師を担う

(イ) 教育文化センターによる上高地の岩石採取計画について

【主な意見を抜粋】

- ・ 現在関係機関へ申請をしており、8月の採取を目指して計画中
- ・ 滝谷花崗閃緑岩だけでなく、数種類の岩石を含めて貴重な上高地の岩石に触れる体験となる。
- ・ 数種類の岩石を年代軸と合わせて学ぶことにより、上高地の生い立ち等の学習につながる。
- ・ 教職員研修としても非常に価値のある学びとなる。

(ウ) 組立望遠鏡について

【主な意見を抜粋】

- ・ 星座に見立てた LED の光を室内で観測するなどして、天候に左右されない学習となっている。
- ・ 用意されているガリレオの望遠鏡をいってみると、視野が極めて狭いことが分かった。当時の観測についてよく理解できる教材である。

(エ) 教職員の働き方改革

小中学校のアルプスタディの最中に担任が児童生徒の学びをしっかりと捉えることができる。その場でじっくりと評価に専念することができるので、子どもの意欲が高まり、教職員の働き方改革にもつながる。

イ ICT・プログラミングについて【出席者 布川委員、矢代委員、上條、桐原】

(ア) プログラミング学習の教材について

- ・ アルプスタディではプログラミングによる機械制御を扱っているが、モーターの特性に合わせた次のような授業の展開が行われていくと良いのではないかと考える。
 - ① 仕組みの単純な DC モーターでは、自動車のタイヤなどの制御を扱う。
 - ② 細かな制御が可能なサーボモーターではロボットの関節の制御を扱う。
- ・ 旭町小学校では、プログラミングの教材を別途購入しているが、視察の内容をふまえてアルプスタディで使用している教材を使った授業実践を検討したい。

(イ) プログラミング的思考を育む手段について

- ・ ブロック型、テキスト型のいずれにしてもプログラミングを通してのみプログラミング的思考を育むものではないと考えている。マインクラフトのようにゲーム的な活動を通して育てていくことも可能だと考える。
- ・ プログラミングの基礎を学んだ子どもたちへの次のステップとして、何を示せるのか検討していきたい。

(ウ) 技術が暮らしをよくしていくということを、プログラミングを行う中で子どもたちに実感させたい。例えば VR で観光地を仮想体験できることで、直接足を運ぶことの出来ない人にも松本の良さを知ってもらいきっかけづくりができるとよいと考えている。

(6) 今後の予定

ア アルプスタディの視察

イ 第2回開催日(10月7日(金) 午後3時30分から午後5時)

ウ 教材研究の推進にあたり、必要に応じて委員と連絡を取りあう

(7) 閉会